

---

# 平成19事業年度 北海道支社事業計画の概要

---

2007年4月3日

あなたに、ベスト・ウェイ。



# 目 次



1. H19事業計画のポイント	.....	1
2. 高速道路建設事業の事業計画	.....	2
3. 高速道路管理事業の事業計画	.....	4
4. サービスエリア・パーキングエリア事業の事業計画	.....	11
5. 新規事業の事業計画	.....	12
6. 道路受託事業の事業計画	.....	13
《参考資料》	.....	14

# 1. H19事業計画のポイント

NEXCO

## H19事業計画のトピックス

道東自動車道(トマムIC ~ 十勝清水IC)が新たに開通します。

虻田洞爺湖ICの移設事業が完了します。

お客さまが快適・便利・安心してご利用いただけるよう、トイレをリフレッシュします。

北海道内初となるコンビニエンス・ストアを新たに導入します。

より安心してETCをご利用いただくために、収受係員の車線横断用安全通路の設置をはじめとする料金所の総合安全対策を進めていきます。

印の施設名称は仮称です。

## 2. 高速道路建設事業の事業計画(1)

NEXCO

蓄積された技術と経験を最大限に活用し、地域の皆様と連携を図りつつ、安全・快適な高速道路ネットワーク整備を着実に推進し、豊かな北の大地を支え、地域と共に親しみのあるハイウェイを提供します。

平成19年度の建設事業費は、492億円を見込んでいます。

平成19年度の高速道路建設事業では、北海道縦貫自動車道と北海道横断自動車道の2路線151kmの事業を実施し、このうち道東自動車道トマムIC( )～十勝清水IC間20.9kmの開通と、虻田洞爺湖ICの移設を完了させます。( 印の施設名称は仮称です。 )

これにより、北海道支社全体延長(711km)の82%にあたる581kmの高速道路ネットワークが形成されます。

また、環境に配慮した高速道路の整備及び、建設事業マネジメントの確立、新たな調達方式などによりコスト削減と品質の向上を目指します。

## 2. 高速道路建設事業の事業計画(2)



H19年度内に以下の区間の開通を予定しています。

【新規開通予定区間及び完成予定】

道東自動車道(トマムIC ~ 十勝清水IC): 20.9 km

虻田洞爺湖IC(移設)

印の施設名称は仮称です。

【トマムIC】



【虻田洞爺湖IC】



### 3. 高速道路管理事業の事業計画(1)

NEXCO

豊かな北の大地を支えるために、冬期においても安心してご利用いただける道路を目指すなど、安全で円滑な道路交通を確保するとともに、ETCを活用した弾力的な料金設定など多様なサービスを提供し、効率的で使いやすく地域に貢献できる道路管理を目指します。

#### 1. 安全で円滑な道路交通を確保します。

**毎日安心してご利用いただけるよう、道路のきめ細かな日常管理を行います。**

お客さまに安心してご利用いただけるよう、路面や橋梁、トンネル、施設設備などの維持・点検に努めます。

路上工事による車線規制を減らし、円滑な交通を確保します。

**お客さまに満足いただける道路管理を行います。**

地域性や路線特性を考慮した顧客満足度(CS)調査を実施・分析し、維持管理事業との関連性を効果検証し、CS向上に努めます。

### 3. 高速道路管理事業の事業計画(2)

NEXCO

道路の走行環境の向上を図るため、交通安全対策や舗装の高機能化を推進します。

雨天時の走行環境を向上させるため高機能舗装化を進めます。

〔高機能舗装率：54% 58%〕

動物の高速道路への侵入防止を推進します。



〔高機能舗装〕



〔動物侵入防止対策〕

道路の定時性を確保するため、通行止時間の削減を目指すとともに、道路情報提供の充実に努めます。

関係機関との連携により、通行止の際には交通の迅速な回復に努め、通行止時間の短縮を図ります。

情報提供機器をより有効に活用し、リアルタイムで詳細な情報提供の更なる充実に努めます。

通行止発生時には、開通を待たれているお客さまに対して、通行止解除に向けた作業状況などの情報を提供していくよう努めます。

大きな渋滞の発生が予測される場合には、渋滞予測情報を提供して渋滞緩和に努めます。

お客様にわかりやすい案内標識と情報提供機器の充実に努めます。



# 3. 高速道路管理事業の事業計画(3)

## 雪に強い道路を目指すため、雪氷作業や雪氷対策設備の充実を図ります。

冬期間の気象変化に対しても極力交通を確保するよう、地域・気象・道路特性に即した雪氷作業を行います。

降雪時の走行性向上のため、防雪柵や視線誘導灯の設置など、視程障害防止対策を進めます。



《道路特性に応じた雪氷作業》



《防雪柵》



《視線誘導灯》

## 災害に強い道路ネットワークを構築するため、橋梁の耐震補強などの防災対策を推進します。

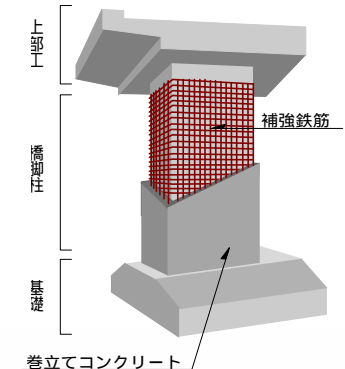
阪神・淡路大震災クラスの大地震にも耐えられるよう、対策が必要な橋梁の補強を行っていきます。

〔橋脚耐震補強完了率：64% 71%〕

降雨防災の強化を図ります。



《橋脚の耐震補強》





### 3. 高速道路管理事業の事業計画(4)

NEXCO

#### 2. ETCを活用した弾力的な料金設定など、多様なサービスを提供します。

ETCを活用した料金企画割引などの料金サービスの展開、ETC諸設備の整備などサービス向上に努めます。

ETCを活用し、期間を限定した料金割引を実施するなど、お客さまサービスの向上に努めます。

ETCの多様なサービスをわかりやすくお知らせするとともに、以下の普及策などに取り組みます。

〔ETC車載器ご購入支援〕(二輪車ETC マイレージ2,000ポイントプレゼントなど)

〔ETC車載器リース制度の継続支援〕

ETC利用率の向上等に即したETCレーンの増設を行います。

以上の各種施策によりETC利用率の向上を目指します。

〔ETC利用率：55% 61%〕

## 3. 高速道路管理事業の事業計画(5)

NEXCO

### 3. 人・環境にやさしい道路空間を構築します。

お客さまが快適・便利・安心してご利用いただけるよう、トイレをリフレッシュします。

清潔で気持ちよく快適にご利用していただくために

- ～ 肌に温もりと清潔さを提供するトイレに変身します ～
  - ・洋式便器に暖房・洗浄便座を整備します。  
〔 現在:約45% 平成19年度末:約90% 〕
  - ・温水対応の自動水栓を整備します。  
〔 全てのサービスエリア・パーキングエリアに、整備を進めていきます。 〕

さまざまなバリアを取り除き、安心してご利用していただくために

- ～ ほっとするような心地よいトイレを提供します ～
  - ・トイレ内の床の段差を解消していきます。

床の滑り防止対策

- ・床が濡れた状態で滑りやすいトイレは、防滑材などによる滑り防止対策を行います。

循環型社会の形成に貢献します。

植物発生材のチップ化など緑のリサイクル及び建設発生土、コンクリート塊、アスファルトコンクリート塊などの建設副産物のリサイクルを推進します。

### 3. 高速道路管理事業の事業計画(6)

NEXCO

#### 4. トータルコストを削減し、効率的な道路管理に取り組みます。

適切な管理水準の検討・実施、ライフサイクルコストの最小化を図るマネジメント手法の定着、新技術の開発など、効率的な道路管理を行います。

総合保全マネジメントを本格化し、資産の長期健全性とライフサイクルコストの最小化、維持修繕による望ましい管理水準の追求、PDCAサイクルの実務定着に取り組みます。  
新技術の開発、新工法の実施、新しい設計方法、規格の見直し、新しい発注方法等によりコスト削減を目指します。

#### 5. 道路管理におけるリスクマネジメントを適切に実施します。

緊急時も迅速・適切に対応できるよう、危機管理を強化します。

大規模災害時にも道路の早期復旧に努め、高速道路が緊急輸送道路として迅速かつ円滑に機能するよう努めます。  
国や地方自治体との連携を強化し、またマニュアルの整備や適切な防災訓練を実施するなど、危機管理体制を強化します。  
ドクターヘリの運用への協力を実施します。



〈ドクターヘリ〉

## 3. 高速道路管理事業の事業計画(7)



### 不正通行対策を徹底します。

不正通行対策を講じ、会社をあげて「不正通行は許さない」という姿勢で対策に取り組めます。

### 料金所安全対策を重点的に実施します。

料金所の総合安全対策として、平成20年度末までに収受係員が利用する車線横断用の安全通路の整備を順次進めるとともに、安全性向上のための各種設備の設置を進めて行きます。

# 4. サービスエリア・パーキングエリア事業の事業計画

## コンビニエンス・ストアの新たな導入

お客様の利便性向上にむけ、すべてのエリアでのサービスレベルの向上を目指す「礎づくり」を行います。

「礎づくり」の具体化として、お客さまの便利をサポートするため「コンビニエンス・ストア」を新たに導入します。

いしずえ

## さらなる安心・安全・快適さの追求

フェイスtoフェイスのきめ細やかな対応を行う「エリアコンシェルジェ」を導入します。

(平成19年度:2箇所)

AEDの管理、救急用品の配備等を行います。



【エリア・コンシェルジェ導入予定:道央自動車道 輪厚PA(上)】

## 地域と連携したサービスの 拡大と開かれたエリアづくり

地域の特産物・工芸品等を販売する地域特産品市場を整備します。

エリア周辺のお客さまに外から利用していただけるようにするため、商業施設の周辺地域側の整備を実施します。



【地域特産品販売事例:道央自動車道 輪厚PA(下)】

# 5.新規事業の事業計画(1)



## eNEXCO ドライブプラザ のさらなる充実

類似サイトとの差別化を図り、「eNEXCO ドライブプラザ」を高速道路のドライブ旅行支援サイトとして定着させます

ショッピングサイトにおいて、地域特産物を積極的に導入するとともに、スポーツ・レジャー等のコンテンツを充実させ、お客さまに不可欠な情報を提供します。

携帯版「eNEXCO ドライブプラザ」のサービスを開始します。

## 【eNEXCO ドライブプラザ】



## E-NEXCO pass のさらなる普及

高速道路利用のキャッシュレス化、高速料金のポイント割引など「E-NEXCO pass」の魅力を感じていただくため、PR活動を強化します。

「E-NEXCO pass」会員へのサービスを充実させます。

## 【E-NEXCO pass】



## 旅行事業に向けた新たな展開

当社の資源(WEBSITE「eNEXCO ドライブプラザ」、SA・PA施設等)を活用したドライブ旅行を提案します。





## 6. 道路受託事業の事業計画

NEXCO

長年培ってきた技術とノウハウを活かし、国、地方公共団体等の事業推進に貢献していきます。

新直轄区間である北海道横断自動車道本別～阿寒間約48kmのうち約13kmを事業受託し、技術とノウハウを活かし、事業推進に協力するとともに、信頼性の高い高速道路ネットワークの構築に貢献します。

経済性、効率性、施工性等の観点から、高速道路建設事業と同時に実施することが有効であると認められる国、地方公共団体等の事業についても、事業受託することで高速道路の整備と一体となって推進します。



# 参 考 资 料



# 平成19年度 開通予定区間

## [道東自動車道 トナムIC ~ 十勝清水IC]

NEXCO

開通区間 道東自動車道 トナムIC ~ 十勝清水IC<sup>とかちしみず</sup>

延長 20.9 km

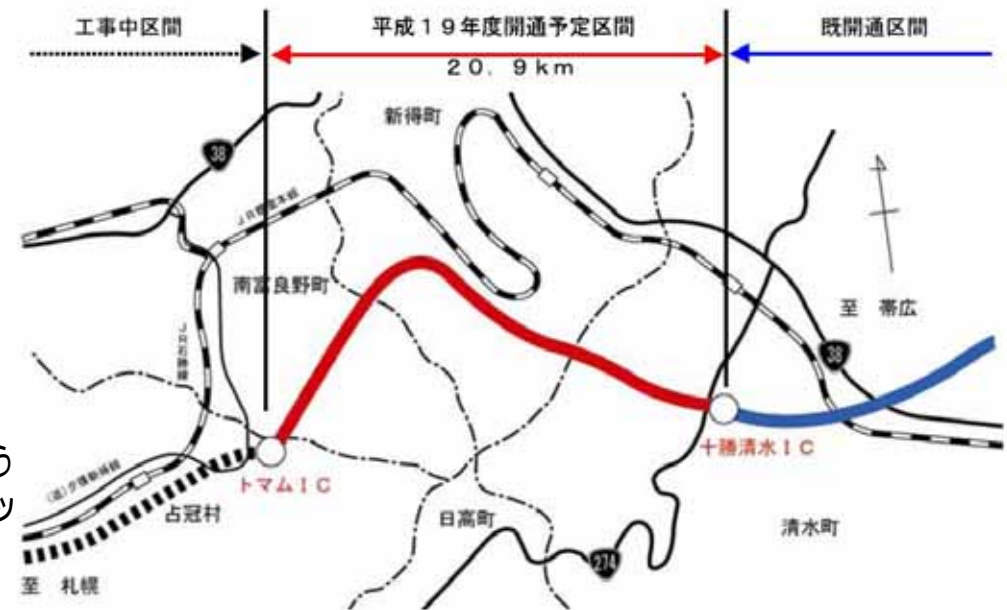
幅員及び車線数 3.5 m × 2車線

設計速度 100 km / h

インターチェンジ等 1箇所  
 トナムIC<sup>ゆうふつくしむかっぶむら</sup> 北海道勇払郡占冠村  
 (道道トナムインター線に連結)

### 路線概要

トナムIC ~ 十勝清水IC間は、道東自動車道の開通済区間の十勝清水ICから日高山脈を横断し札幌方面に延伸する20.9 kmの区間で、道東圏へのアクセスが向上するとともに、道内最大の難所である一般国道274号の日勝峠(にっしょうとうげ)や一般国道38号の狩勝峠(かりかちとうげ)の代替路として機能することにより、災害に強い道路ネットワークが構築されます。また、一般国道274号の日勝峠(標高1,022 m)と比較して最高標高が約400 m低くなるとともに、道路線形も改善されるため、交通障害が発生するリスクが大幅に改善されます。



印の施設名称は仮称です。

# 平成19年度 完成予定IC [道央自動車道 虻田洞爺湖IC]

NEXCO

あぶたぐんとうやこちょう

開通箇所 北海道虻田郡洞爺湖町

連結道路 一般国道230号(平成19年3月28日新ルート供用)

## 路線概要

道央自動車道は、広大な面積を有する北海道を南北に縦断し、道央圏と道南・道北圏を連絡する高規格道路であり、沿線地域の産業・経済・文化・観光等の発展及び振興に寄与する重要な路線です。

今回開通の虻田洞爺湖ICは、平成12年3月に発生した有珠山噴火により被害を受けた一般国道230号の新ルートへの付替えに伴い現ICを移設するものです。

この移設により一般国道230号の新ルートと一体となって災害時の緊急避難路として機能、災害に強い道路ネットワークが構築されるとともに道内有数の観光地である洞爺湖温泉へのアクセスが向上することから観光振興などに貢献します。



# 《道路管理に関するアウトカム指標、数値目標》

より効果的、効率的に事業を執行するための事業の実施により、発生する効果や成果(アウトカム)を表す指標や事業量の数値目標は、以下のとおりです。

アウトカム指標数値目標	定 義	H18年度(見込値)	H19年度(目標値)
路上工事による車線規制時間	道路1Kmあたりの路上作業に伴う年間の交通規制時間	3.9時間 / (Km・年)	4.0時間 / (Km・年) <sup>1</sup>
ETC利用率	ETC導入済み料金所におけるETC利用者の割合	55% <sup>2</sup>	61%
死傷事故率	走行車両1億台キロあたりの死傷事故件数 <sup>3</sup>	7.4件 / 億台キロ <sup>4</sup>	7.1件 / 億台キロ (下回るように努力)
舗装保全率	舗装路面の健全度 <sup>5</sup> を表す車線の延長比率	81%	86%
橋脚補強完了率	古い基準を適用した橋梁で、耐震補強を必要とする橋脚のうち、補強が完了している橋脚基数の割合	64%	71% <sup>6</sup>
利用時間確保率	道路が利用可能な時間 <sup>7</sup> の比率	99.1% <sup>8</sup>	98.8% (上回るように努力)
顧客満足度	CS調査等で把握する維持管理に関するお客さまの満足度(5段階評価)	3.6	3.6 (上回るように努力)
高機能舗装率	高機能舗装整備延長の割合	54%	58%
ETC停止処理率	カード挿し忘れ等のトラブルにより、ETC車が専用レーンで停止し、ノンストップ走行できない割合	0.25%	0.20%

1 平成19年度の路上工事による車線規制時間については、安全性・快適性向上のための舗装工事が平成18年度に比べ増加することから、車線規制時間が増加します。

2 年度末月の平均利用率(台数の割合)を示しています。

3 死傷事故率は、1～12月までの暦年の事故率を示しています。

4 平成18年(1月～12月)の実績値を示しています。

5 舗装の健全度とは、概ね5年以内には舗装補修を必要としない状態をいいます。

6 補強対象橋脚の工事契約率は100%です。

7 降雨、降雪に因る通行止め(災害、地震等を除く)と、事故や工事による通行止を除く、通行可能な時間をいいます。利用時間確保率は、1～12月までの暦年の確保率を示しています。

8 平成18年の利用時間確保率は、雪に起因した通行止が例年より減少したため、目標値より大きく向上しました。